

2019 くすのき

VOL.30

# 樟 樹

樟樹会 別居洪西島年学校同窓会

# 会長挨拶



樟樹会会長

妹尾次郎

昭和55年卒

を頼ってください。

また、この日は卒業50年目にあたる昭和44年ご卒業の先輩方を来賓としてお招きすることが出来ました。皆さん、久しぶりに母校の空気に触れ、青春時代を懐かしんでいらつしゃいました。当時は大学受験と重なり卒業式に出られなかった方も多数おられ、この取り組みは大変意義深いものと思っております。今回で6回

目となりましたが、ご理解とご協力を頂きました学校関係者の皆様に感謝を申し上げますと共に、今後も同窓会の継続事業として取り組んで参ります。

さらに、4月8日には、入学式が執り行われ、新たに270名の後輩が誕生いたしました。中学を卒業したばかりのあどけなさが残る新入生ですが、3年後にはきつと立派に成長し、西高の歴史に新たな一頁を残して、卒業していくに違いありません。

私が、昨年の8月に会長を拝命して早一年が経とうとしておりますが、会長としての役割はまだ十分に果たせておりません。この度、元号も平成から令和に変わりましたので、新しい時代に即した同窓会のあるべき姿を描いて参りたいと存じます。同窓生の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

樟樹会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、同窓会活動に対し、格別のご理解とご協力を賜りまして、誠に有難うございます。心より厚く御礼申し上げます。

今年の3月1日に平成最後の卒業生287名が、学び舎を元気に巣立っていきました。その卒業式に同窓会会長として初めて参列しましたが、厳かな雰囲気の中で執り行われ、創立100年の伝統を感じさせる格式の高いものでした。私は、挨拶の中で「西高の同級生との繋がりをいつまでも大切に育んで欲しい。必ず、皆さんの人生の大きな財産になりますよ。」というメッセージを贈らせて頂きました。

先輩諸氏におかれましては、後輩の面倒を見て頂きますよう、この場を借りてお願い申し上げます。また、後輩諸君も遠慮なく気軽に先輩

## 平成30年度 樟樹会一般会計収支決算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

項目	30年度予算額	30年度決算額	備考
前年度繰越金	2,995,734	2,995,734	
収入の部			
入会金(全日制)	2,682,900	2,593,800	786人×3,300円
入会金(定時制)	297,000	138,600	14人×9,900円
雑収入	10,000	17	貯金利子 預金利息
運営会費	1,500,000	1,486,000	運営会費 261円 1口 3,000円から 賛助会費 50円 1口 10,000円から
収入合計	7,485,634	7,214,151	
支出の部			
会合費	400,000	617,421	理事会・総会補助
慶弔費	50,000	55,000	饗別・香典他
人件費	1,440,000	1,440,000	賃金
事務費	50,000	37,830	事務費
事務機器費	149,040	149,040	プリンター一式
同窓会賞	15,000	15,000	全日制若干名 定時制若干名
入会祝	330,480	285,163	全日制・定時制 卒業生へ記念品
支部への補助金	60,000	60,000	各支部総会懇親会 お祝い金
旅費	120,000	80,000	各支部総会懇親会出席のため
生徒への補助金	500,000	510,000	全国大会出場補助
その他の事業費	100,000	355,485	高校野球大会広告料 50年目の卒業式経費
通信費	200,000	271,548	電話代 郵送切手・葉書代
同窓会誌購入費	620,000	480,996	100周年募金者に贈呈他
雑費・予備費	300,000	388,356	振替加入口座手数料負担他
周年事業積立金	500,000	500,000	特別会計へ(2回目)
次年度繰越金	2,651,114	1,968,312	
支出合計	7,485,634	7,214,151	

## 令和元年度

### 総会および懇親会のご案内

日時 令和元年8月3日(土)

総会および懇親会

受付 17:00～

時間 18:00～21:00

場所 リーガロイヤルホテル新居浜

新居浜市前田町6-9

TEL 0897-37-1121

チケット 4,000円(一般会員)

2,000円(平成24年以降卒業会員)

当日も受付けます。

ご要望に応じて、同期生・部活等のテーブルをご用意します。

# 本部だより

## 令和元年度 事業計画 (案)

月日	会合名	事業内容
3月22日	樟樹編集委員会	「樟樹」30号印刷所承認・概要相談
4月11日	会計監査	平成30年度会計帳簿類
4月15日	樟樹編集委員会	「樟樹」30号原稿依頼先および担当者決定
4月20日	第一回常任理事会	平成30年度 事業報告 平成30年度 会計決算報告 平成30年度 会計監査報告 令和元年度 役員変更に関する承認 令和元年度 事業計画案 令和元年度 予算案 令和元年度 総会・懇親会開催準備について その他
5月7日	樟樹編集委員会	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合せ
5月9日	第一回理事会	第一回常任理事会と同内容
5月20日	樟樹編集委員会	前回分校正・第2次原稿持寄り
5月27日	樟樹編集委員会	校正
6月2日	東日本樟樹会総会	樟樹会本部より若干名出席
6月4日	樟樹編集委員会	最終校正
6月7日	第二回常任理事会	令和元年度 総会・懇親会開催準備について 総会の議事内容、運営方法、会員券の販売 招待者、チラシ、ポスター等 その他
6月7日	第二回理事会	第二回常任理事会と同内容
6月13日	西高祭支援	チャリティーバザー模擬店出店 西高どら焼き販売
7月6日	近畿くすのき会総会	樟樹会本部より若干名出席
7月15日		「樟樹」30号発行
8月3日	総会・懇親会	平成30年度 事業報告 平成30年度 会計決算報告 平成30年度 会計監査報告 令和元年度 役員変更に関する承認 令和元年度 事業計画案 令和元年度 予算案 その他
11月初旬	松山樟樹会総会	樟樹会本部より若干名出席
1月下旬	第三回常任理事会	令和元年度の反省及び令和2年度の予定 同窓会入会記念品及び同窓会賞について その他
2月上旬	第三回理事会	第三回常任理事会と同内容
2月下旬	同窓会入会式	新会員へ入会記念品贈呈
3月上旬	同窓会賞授与	卒業式にて授与(全日制 定時制 若干名) 50年前(昭和45年)の卒業会員を招待

## “同窓会事務局”へようこそ

昭和63年2月13日、創立70周年記念事業で、待望の“記念会館”が落成されました。

その1階に“同窓会事務局”があります。

遡って、昭和51年4月1日に「愛媛県立新居浜西高等学校同窓会会則」が制定されています。当時の同窓会活動は主に学校本館内で行われていたようで、幾度となく行われる会議のたびに、学校の会議室を借りるのは大変であったのではと思います。

今、本館から離れた記念会館の一室で、いろいろ作業を行えるのは実にありがたい事です。隣の部室から聞こえる吹奏楽部の奏でる演奏や、生徒たちの賑やかな様子から、元気をもらえるというおまけ付きですから。

その後、平成5年8月7日の総会で、樟樹(くすのき)会と名称を変更し、会員に親しみを持たれる同窓会へと徐々に発展してきました。

この30余年で、時代は昭和から平成に、そして令和へと緩やかにではあるけれど確実に流れています。

しかし、ここには変わらない何かがあるように思います。

それを探しに“同窓会事務局”に足を運んでみませんか？



## 50年目の卒業式

菅 伸明 (昭和44年卒)

平成最後の年となる3月1日、母校・新居浜西高等学校から「50年目の卒業式」に招待された。我々団塊の世代の端っこに属する者は、この時期、入試、入試で日本全国

で全国各地に散らばっている学友に呼び掛けられた結果、360人中69名の者が集まってくれた。恩師の寺岡、飯尾両先生も御来訪くださり、錦上花を添えていただいた。

を飛び回って、自分の卒業式に出ていない者が多数いる。



一番遠くの茨城県土浦市から駆けつけてくれた小森君による乾杯の発声後、にぎにぎしくも晴れやかに歓談が始まった。途中、テブルごとにマイクを回し、それぞれの近況報告があつたが、各人の紆余曲折の人生に、食事の手を休めてみんな聞き入っていた。12時

かく言う高校教師の私も、勤務する学校の卒業式にはこの40年来随分参加したが、自分の卒業式に出席した記憶がない。半世紀待たされたが、厳粛な式に参列し、格調高い二部合唱の校歌を改めて聞き直し、まことに感慨深いものがあった。



30分に始まった同期会ではあつたが、三次会、四次会と発展し、最後は夜の11時過ぎまで語り合った者もいたとか…。この稿の結びに一句！。

その日の午後、引き続いて第12回目の同期会がユアーズで開催された。3年半ごとに会を持つているが、今回は節目の同期会であることもあり、電話や手紙

白兎駆く一片の雲卒業歌 伸明

# 生

にわたり活躍されている  
するコーナーです

# 介

## Profile

昭和59年 新居浜西高等学校普通科 卒業  
昭和60年 東北大学理学部物理学科 入学  
平成元年 同 卒業  
株式会社タイワ 設立に参加  
取締役開発部長として汎用CAD/CAMシステム(※)『実寸法師』の開発に取り組む  
平成21年 同 代表取締役役に就任  
現在に至る



こんどう けんじ  
近藤 健司

## 長かったモラトリアム

※「CAD/CAMシステム」とは、工場生産全工程の効率化、品質の向上を可能にするコンピューターソフト。データベース化された設計情報を基にコンピューター内部で設計モデルを作成し、工作機械やロボットを制御して生産工程を自動化する技法。

私は若いころ、「先送りの人生」を生きていたと思います。小学生のころからギターを弾き始めた私は、小学校の卒業文集に将来ミュージシャンになりたいと書きました。といつても本気でミュージシャンを目指すことはなく、父親が鉄工所を経営していたので、「いざとなったら鉄工所のおやじになってもいいか」などと思いつつ、中学校に入ってもあまり勉強もせずギターばかり弾いていました。

そのころ見に行った西高祭に出ていたバンドの演奏を聴いて、自分も西高に入つて西高祭に出たいと思つたことが第一の志望理由で西高に入つて3年間、1年のときは先輩のバンドに参加して、2年からは自分のバンドを組んで西高祭のステージに立ちました。おかげで同窓生からも「ギターがうまかった」ということだけは記憶されているようです。

このような高校生活を送る中、勉強や将来の進路のことはあまり考えていませんでした。なんとなく東京にあげられて東京の大学を受験して失敗し、1年間の予備校生活を経て選んだのはあまり就職先のイメージに直結しない理学部でした。

たばかりのパソコンを使って業務合理化のシステムづくりに取り組んでいましたが、たまたまプログラマーが退職してしまったことで、私が大学に通いながらアルバイトとしてソフト開発を担当するようになっていました。お小遣い欲しさということもありましたが、自分の作ったプログラムが即戦力として役に立っていくことが面白く、どんどんこの仕事にのめり込んでいきました。やがて当時需要が高まっていたCADソフトの開発へと移行し、大学を卒業するころまでには市販のCADソフトを上回るほどの使い易さと機能を持つようになったこのソフトを、父は全国販売すると言いました。

私は既に大学院進学を決めていましたが、その大学院2年間の学業の余暇を利用して会社を手伝つてくれと言うのです。全国販売となるとそんな片手間で無理なので、「大学院に行ったつもりで2年間だけ手伝う」「それが終わったら渡米して大学院に行く」などと言いながら、「実寸法師」と名付けたこの新製品を販売する新会社「株式会社タイワ」に入りました。またしても自分の人生は先送りにして、就職までもがモラトリアムだったのです。

最初のうちは事業も急成長し、父に頼まれて父の人生に手を貸す立場は愉快でしたが、実際には2年で結果が出せるほどの世界は甘くはなく、なし崩し的に10数年がたったころ、長かったモラトリアム人生に別れを告げる転機が訪れました。会社の経

営が急速に悪化し、倒産の危機に陥ったのです。父に経営をまかせっきりだった私はずいぶん父を恨みました。自分の人生を生きていないと、うまくいかない時に人は簡単に被害者や犠牲者の立場に身をおいてしまふようです。

さて、父に全責任を押し付けて会社を潰し、別会社を立ち上げて事業を引き継ぐのか、自分が社長になり全責任を引き受けて会社の再建を担うのか、究極の選択を突きつけられたときに、意外にも自分が選択したのは後者でした。どちらに進んでも地獄でしたが、父の名誉を守ることで自分の人生も取り戻せる気がして、俄然やる気が涌いたのです。

本当にこの瞬間から自分の人生は始まりました。そこからの数年間は確かに大変でしたが、どんな苦労も自分を成長させるチャンスに見えるようになり、それまでの人生とは比べ物にならないほど充実したものになりました。今では会社も安定し、「実寸法師」は日本の鉄骨建築の世界で無くてはならない存在になりました。

私自身、まだまだこれからですが、残りの人生で取り組むべきライフワークと呼べるものにも出会えたと思います。ちなみに音楽活動は楽器を替えつつ続けていて、今は地元の小さな楽団でチェロを弾いています。

50代になって長かったモラトリアム期を振り返ると、自分が自分の人生を選択し、責任と喜びを持って生きる準備が整うまで、ちゃんと準備をしていたんだなと感じます。急ぐことはないし、誰にでもいつかはその時が訪れるものだよと、若い世代にも伝えたいです。

# 同窓

文化面、産業界など各界  
同窓生をご紹介します

# 紹介

## 米寿を生きても思っていること

私は現在87歳のバーバさまです。昔で云う米寿を生きています。自分のことを「さま」もおかしいですが年にに対して少し敬意をと考えました。西高卒と申ししましても、旧制高等女学校のラストを飾る卒業生です。当時は小4の12月に、太平洋戦争が始まり、女学校2年生の夏の戦争の終結をみました。上級生は学徒動員で工場等にて働き、学校では私たちが最上級生でした。

受験の折の校長面談は、佐藤校長でした。親の年と私の年の差を問われ、「父23歳の子です」と答えると、「ほうかや、お前のおとつあんは、若い時に嫁もろろうたんじゃねや」とおっしゃられて、もう緊張でコチコチの私は、益々緊張、どう返事したのか、とまどったものでした。そんなのに合格をもらいました。

戦後になって西隣にある新居浜工業高校に、進駐軍が駐留していたので、住鉄の駅まで一人になったりすると、ドキドキでした。昨日まで敵と思っていた兵隊が、グループに4人乗で、座席に立ち上って「ヘーイカモン」と手を振ってからかいます。こちらは一点集中、目を合わさず平気をよそおって、心の中はドキドキでした。当時生物担当の河野先生は（後に校長になられました）「日本人の血をよこしてはいけん…」と話されましたが、こちらは、チンプンカンプンでした。

その河野先生が私の3年桜組の担任伊藤先生と結婚され、思春期の私達に、「自分の考えで相手を選ぼう」を身をもってお教え下さったと理解しました。

私は4年で晴れて卒業。戦後の学制改革により、一級下の方は、女学校を受験して合格されたにもかかわらず、新制併設中学校卒となり、高校へ行かない方は、一生「くやしい」思いでした。戦後のどさくさで、親も子も生きること必死でした。

仲間はおよそ95%ぐらい市内の住友五社の事務員や、小学校の教師となりました。当時は戦後の復興に皆働き、地域性もあつて、鉱山の三交替勤務のために、夜働き、昼間休息を取るのに小さな長屋の社宅では、子どもが居ると休みもとれなく、母親は背中一人、両手に子どもの手を引いて外に出たものでした。一方、もう一点幼児教育の為に雨後の筍のように保育所が作られ、鉱山系では東平・鹿森・立川・川口新田・山根と開設されて行きました。川口新田では西も東もわからない私が、保育士のひよこになってしまいました。

鉱内の仕事は、危険と隣合わせで、万が一夫が命を失うことがあつたりすると、母親は生きるために仕事を始めるので、赤ちゃんがいれば、園児として保育します。国の制度がまだ0才児入所を認めてなくとも、実情に合わせてあずかりました。また、妻を亡くした男性が日曜出勤の時など、私は子供を自宅につれて帰り、母の協力を

もらって一日保育です。その方は卒園の折、私の耳許で「先生、親子心しくなくて良かった、アリガトウ」とボソリ。決して忘れられません。

保育園はその後時代とともに変わり、新田保育園は社会福祉法人となりました。「障害を持つ子も差別なく」の考えから障害児の保育にも更に力を入れ、新居浜市の後押しもあつて、地域、保護者、保育者が協力して健常児障害児統合保育に取り組みました。この取り組みは、現在は広く浸透し、県下の多くの保育園で行われています。

平成30年4月には新田保育園の隣に成人の障害者のためのグループホームが開設されました。「ゆりかごから一生幸せに!!」の思いから設立された施設です。たとえ親御さんに何かあつても安心して暮らせませす。その施設と背中合わせに障害児の学童保育の施設も開設されました。開設にあつては、国・県・市の補助も受けました。

新田保育園のシンボルの大きないちじくの木は、旧園舎から移植されたものです。大きく枝を伸ばし、園児の成長、発達を見守ってくれています。

実に多くの方々が、私の夢の実現に手を貸し、厚志を下さり、導いて下さいました。あの時代を生き抜いた級友たちも、協力をおしみなく。今、私は「ありがとう」の巡礼の旅に出たいと心から思っています。現実には足も腰もハアアテです。この場をお借りして心から「ありがとうございます」と申し上げて、この文章を結びます。

先輩の皆さまの御活躍と西高の益々の御発展を願いつつ。

### Profile

昭和7年 新居浜市角野川口新田に生まれる  
昭和23年 愛媛県立新居浜高等女学校卒業  
昭和24年 新田保育園開設と同時に保母となる  
昭和28年 愛媛県立保育専門学校開設と同時に入学  
昭和30年 同校卒業  
昭和31年 新田保育園主任保母士となる  
昭和40年 同園園長となる  
昭和46年 愛媛県保母会副会長(昭和53年まで)  
昭和60年 社会福祉法人 角野新田福祉会 設立  
同法人理事長となる  
平成19年 同園副園長となる  
平成29年 同副園長退職 理事長専任 現在に至る  
平成30年 同法人立グループホーム  
同法人立学童保育(障害児のため)開設



### おちあい みさお

# の 歩 み

## 愛される西高野球部に

野球部主将 玉井 幹大



西高野球部の目指しているもの、それは、「みんなに応援されるチームになる。」ということ。みんなとは、西高生、先生方、保護者や地域の方々はもちろん、僕達の試合を見て下さる全ての皆さんです。僕は、自分達がチームとして強くなることも大切ですが、それ以上に、礼儀正しく気持ちのよいチームでありたいと考えています。

西高野球部は3年生5人、2年生11人、1年生12人の計28人で、監督の鈴木先生、部長の清水先生、弓立先生・菊池先生のご指導の下、毎日練習に励んでいます。

試合成績としては、秋の大会ベスト4、春の大会ベスト8を目標に頑張ってきました。しかし結果は、秋の大会ベスト16、春の大会ベスト8に終わりました。自分達に何が足りなかったのか、強くなるためにどうすればよいのか、先生方にご指導を受けたり、選手間でミーティングをしたりとこれまで以上の成績を残すべく、今、練習に取り組みんでいます。

僕達個々の能力だけでは、強豪校に劣るかもしれません。では強くなるためにどうすればよいのか。先生方は、「私達が勝つためには細かいことを徹底しなければいけない。」といつもおっしゃっています。

具体的には、5B+1Eです。

・5B

バントミスをしない。

ボーンヘッドをしない。

ボール球を打たない。

ベースランニングでミスをしない。

4B、DBを簡単に与えない。

・1E

エラーをしない。

これらを徹底するということが大事なのは「意識をする」ということだと気付きました。絶対こうするということ意識をしっかり持っていけば、結果はかなり変わってくるということが分かってきました。

また、大事なのは「チーム力



である」ということもこれまでの経験から学びました。ピンチの時も、チャンスの時も、常に選手間で声を掛け合い、互いを支え合うことが、チーム力を高めていくのだと感じています。

そして僕達にはもう一つの大きな目標があります。それは「勉強と野球の両立」です。学習時間を確保するため、午後7時半完全下校を守るようにしています。西高のグラウンドでは練習内容にも限りがあるため、選手達の中で効率を重視し、試行錯誤しながら頑張っています。

最後に、この文章を書くにあたって僕が改めて実感したことがあります。月並みですが、それは「感謝の気持ち」です。いつも熱心にご指導くださる先生方、応援してくれる友達、遠征の際の運転手さん、合宿等でお世話をしてくださる宿舎の方々、試合の時にいつも熱い応援をしてくれる保護者の皆さん、そして毎日共に頑張っている仲間達。僕達の周りには、たくさんの方がいます。皆さんがいなければ、僕達野球部は成り立ちません。

西高野球部の一員として、僕が、今、ここに立てることに感謝し、その気持ちを決して忘れることなく、愛される西高野球部を目指して残りの練習に取り組みしていきます。



# 部活動

## のびのび！わくわく！美術部！

岡本 唯花（平成31年卒業生）



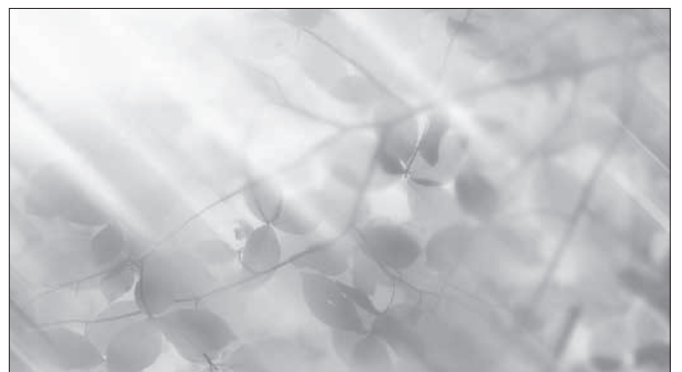
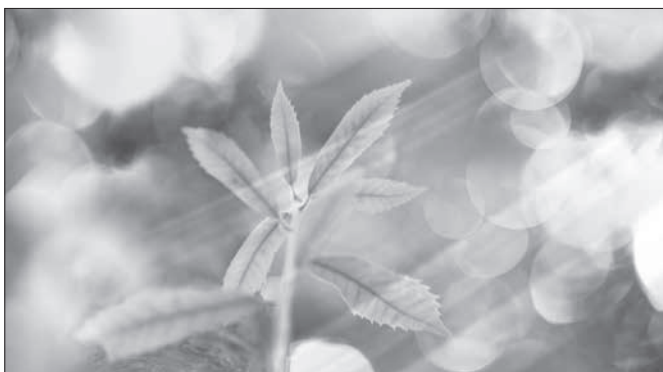
私たち美術部はとても自由な部活です。決まった活動スケジュールは無く、好きな時に美術室にきて、好きな時に帰る。何をやるかはすべて個人の自由です。そのため、既にほかの部活に入っている生徒でも入部しやすく、部員数は25名と文化部の中では非常に多いと思います。そんな美術部の日常は、とても賑やかです。部員同士だけでなく、部員と顧問の先生の仲も良く、常に楽しいな会話が絶えません。放課後の美術室は部員たちにとってアットホームな雰囲気がいっぱい、リラックスタイムな場所となっています。

美術部には大きなイベントが2つあります。1つ目は西高祭。部員は全員作品を1つ制作し、それを美術室で展示します。1年生にとっては初めて本格的に作品を制作し、多くの人に自分の作品を見てもらう機会となります。ここでは決められたものではなく、部員ひとりひとりが自由に作品を作るので、部員の個性が絵に表れてきます。

2つ目は、秋に行われる県高校総合文化祭です。ほとんどの部員がこの文化祭に向けて西高祭が終わった後から作品を制作します。早い人は4月から始めているようです。それほど、この文化祭に向けての作品制作は気合が入るものなのです。というのも、この文化祭では県内の美術部員の作品が展示され、その中から選ばれた作品は賞を取ることができるところです。また、この文化祭での経験はとても貴重なものです。自分と同じ高校生が創造した素晴らしい作品をたくさん見ることができるとも、そのあともに行われる評価会が最も美術部員にとって勉強になったことだと思います。この評価会では、作品を作った人本人がどういう思いでこの作品を作ったのか、どういうところを工夫したのか、などを発表します。この時の話を聞いて、作品の魅せ方や作品を考えると、きの発想の仕方などを学ぶことができるように思います。

最近では、この2つ以外のイベントに参加することも多くなっています。西高の美術部にとって美術館というものはあまり身近なものではありませんでしたが、あかがねミュージアムが新居浜駅前に来たことで、気軽に美術館に行けるようになりました。部活動で美術展を見に行き、様々なイベントに参加できる機会が増えるのは大変喜ばしいことです。以前よりも美術部が団体で活動することが増え、部の一体感が増したように感じます。これからは、もどんどん地域に根差した活動をしていってほしいと思います。

この3年間、私は美術部に所属し、芸術活動を通して様々な人と触れ合うことができたように思います。これからは、西高美術部は人との触れ合いを感じることもできる温かい場所であってほしいと思います。指導してくださった顧問の先生方、先輩方、部員の皆さん、本当にありがとうございました。



# 母校の概況

Nihama-Nishi High School

## 感動の卒業式



校長 玉井 広志

き飛ばした運動会、その折々に、最高学年として発揮したリーダーぶりは実に見事であり、その爽やかな躍動感には感動すら覚えました。

文武両道をめざして、学習や部活動にも熱心に努力し、受験体制に入ってから、たゆまぬ前進

樟樹会の皆様には日頃から母校に対して格別のご支援・ご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

去る3月1日、全日制273名の生徒が母校を巣立っていきました。学科の再編により類型名を、従来の「文科類型と理科類型」から「人文社会類型と理数医療類型」に改めてからの最初の卒業生です。この学年の奮闘ぶりは、赴任したばかりの私に、西高生の素晴らしさを教えてくれました。家族とともに楽しんだ西高祭、雨に悩まされたクラスマッチ、暑さを吹

2名を筆頭に11名が合格しました。部活動でも、放送部が全協協ランプリ学生の部で最優秀賞に当たると、全国大会で活躍する生徒など、全国大会等で活躍する生徒を多数輩出することができました。

毎年お迎えしている、卒業50周年の皆様は、今年はずいぶん

田前会長の学年にあたり、50名近くの先輩の皆さんが卒業式に花を添えてくださいました。感動冷めやらぬ卒業式のと、畑

田前会長、妹尾会長、白石副会長、今井副会長、PTA役員の皆様と満開の椿桜のもと、百周年記念モノメントの前で、記念撮影をいたしましたので披露させていただきます。

定時制の卒業式でも、3年次生3名と4年次生11名、計14名の卒業生を送り出しました。彼らの活躍も素晴らしく、全ての部活動で全国大会に出場するなど充実した

学校生活に取り組み、就職内定率85・7%、進

学も含めた進路実現率78・6%と高い実績を挙げてくれました。

今年度は、全日制に253名の新入生を迎えて3学年で783名、定時制が17名の新入生を迎えて66名

となり、全校生徒849名で順調にスタートしました。魅力的な学校創りを通して、さらに地域に愛され慕われる西高にしていきたいと考えております。

先日、県総体東予地区予選が行われ、183名が、県総体に出場

することにしました。また、文化部も、将棋・放送・文芸・合唱部が8月に佐賀県で行われる第43回全国高等学校総合文化祭の出場を決めており、活躍の場を広げています。

今後とも自己実現のできる生徒の育成に努め、西高に通うことに誇りを持ち、充実した学校生活となるよう教職員一同努力していく所存でございます。今後とも、樟樹会の皆様には、どうか一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。





# 教職員の異動

## 《転入》

教頭 安藤 計 (三島)  
 事務長 片岡まどか (新南)  
 国語 宮崎 真紀 (東予)  
 地公 村尾 淳 (再任用)  
 数学 矢野 大志 (今南)  
 理科 柏木 康彦 (三瓶)  
 理科 正岡 直起 (新採)  
 理科 近藤 俊彰 (新田青雲)  
 保体 三谷 政史 (土居)  
 芸術 永井 紀夫 (今北)  
 事務 久家美奈子  
 新採指導教員 中川 文生 (西農)

## 《転出》

教頭 鈴木 斎 (土居)  
 事務長 松岡 英次 (八幡浜)  
 国語 渡邊 琴子 (今治特)  
 地公 川村 貴昭 (新商)  
 数学 渡辺 一生 (三島)  
 理科 倉光久美子 (西条)  
 理科 白石 千明 (松山中央)  
 保体 奥田 真司 (松北)  
 芸術 一色 良一 (退職)  
 事務 伊藤 江里 (退職)  
 新採指導教員 藤中 俊夫 (退職)

# 同窓の教職員

(氏名)	(卒業年)	(教科等)
甲斐 誠 (再任用)	昭和50	数学
中川 文生	昭和51	数学
村尾 淳	昭和52	地公
五味 昭秀	昭和53	教頭
亀尾 千春	昭和53	事務
武智 優子	昭和56	英語
藤田 利架	昭和56	英語
鈴木 一宏	昭和58	保体
塩崎 美都	昭和63	国語
藤澤 真美	昭和63	英語
宮崎 真紀	平成3	国語
三谷 政史	平成4	保体
小池 佳子	平成9	英語
吉村 新平	平成15	数学

## ▶ 大学合格一覧

最近3カ年の総合合格者と、大学別合格者の一部を紹介(過年度生を含む)

	29年	30年	31年
国公立大	136	140	170
私立大	312	337	365

	29年	30年	31年
北海道大	2	0	2
東北大	0	0	0
東京大	0	0	0
名古屋大	0	2	1
京都大	2	3	2
大阪大	4	4	3
神戸大	2	4	3
岡山大	16	7	16
広島大	3	4	2
愛媛大	30	32	28
九州大	2	1	3

## ▶ 年間行事予定

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4	月
19	1	21	18	8	20	28	16	8	1	6	1	27
19	1	21	18	8	20	28	16	8	1	6	1	27
3学期終業式	全日制卒業式・定時制卒業式	学年末考査(〜28日)	大学入試センター試験(〜19日)	3学期始業式	2学期終業式	2学期期末考査(〜12月4日)	定時制運動会	県高校総合文化祭(〜17日松山市周辺)	2年生修学旅行(〜11日)	2学期中間考査(〜11日)(1・3年生)	2学期中間考査(〜4日)(2年生)	運動会
												定時制・通信制県総合体育大会
												2学期始業式
												1学期終業式
												1学期期末考査(〜7月2日)
												1学期期未考査(〜6月3日松山市周辺)
												西高祭
												13
												31
												14
												6
												8
												8
												日
												行事
												全日制入学式・1学期始業式・定時制入学式
												PTA総会
												1学期中間考査(〜17日)
												県高校総合体育大会(〜6月3日松山市周辺)



速報

6月15日~17日 四国高校選手権大会

陸上競技

西原愛華さん

1500m 2位 3000m 優勝

インターハイ

令和元年度愛媛県高等学校総合体育大会 結果一覧

6月1日から3日にかけて、愛媛県高等学校総合体育大会が松山市を中心に開催され、本校からも183名の生徒が参加し、各競技で活躍した。主な結果は下記の通り。

●陸上競技部

男子

800m 久保政郁 出場
5000mW 石川遙己 10位
400mH 宮武啓太 出場

女子

200m 郭 嘉恵 出場
400m 郭 嘉恵 出場
1500m 西原愛華 1位 (四国大会出場)
3000m 西原愛華 1位 (四国大会出場)
400mH 森田真子 出場
4x400mR 築山・森田・郭・西原 出場

●バスケットボール部

男子

1回戦 新居浜西 80-86 東温

女子

1回戦 新居浜西 86-66 松山中央
2回戦 新居浜西 86-38 南宇和
3回戦 新居浜西 36-110 聖カタリナ
ベスト8

●バレーボール部

男子

1回戦 新居浜西 0-2 東温

女子

1回戦 新居浜西 2-0 小田
2回戦 新居浜西 2-0 小松
準々決勝 新居浜西 0-2 聖カタリナ
ベスト8

●バドミントン部

男子団体

2回戦 新居浜西 3-0 愛光
準々決勝 新居浜西 3-0 上浮穴
準決勝 新居浜西 0-3 新田
第3位 (四国大会出場)

男子個人ダブルス

加藤隆太郎・片岡優仁 1回戦

男子個人シングルス

加藤隆太郎 2回戦
森 千真 2回戦
片岡優仁 1回戦
加藤寿隆 1回戦

女子団体

2回戦 新居浜西 3-0 東温
準々決勝 新居浜西 2-3 松山商
ベスト8

女子個人ダブルス

岩間有澄・園部愛佑美 ベスト8

女子個人シングルス

岩間有澄 1回戦
園部愛佑美 1回戦
石川澄佳 1回戦

●卓球部

男子ダブルス

曾我部拓真・池本貴俊
ベスト8 (四国大会出場)
越野太智・太田達也 3回戦

男子シングルス

曾我部拓真
ベスト16 (四国大会出場)
池本貴俊 2回戦
越野太智 1回戦
太田達也 1回戦

●ソフトテニス部

男子団体

1回戦 新居浜西 1-2 南宇和
安田 新 渡辺大輝 真鍋晃己
寺田彪流 齊藤 凛 稲田 凌
加藤修蔵 井川陽人

男子個人

2回戦 真鍋晃己・稲田 凌
齊藤 凛 渡辺大輝

女子団体

1回戦 新居浜西 3-0 松山西
2回戦 新居浜西 2-1 八幡浜
3回戦 新居浜西 0-3 北宇和

女子個人

ベスト8
続木千春 福井杏奈 藤田李里
藤田美浩 吉田美歩 元山侑香
吉岡桃花 枝廣優里

女子個人

1回戦 藤田李里・藤田美浩
続木千春・福井杏奈

●ハンドボール部

新居浜西 12-25 伊予

●剣道部

男子個人

1回戦 寺田拓海

男子団体

2回戦 新居浜西 3(4)-2(3) 松山城南
3回戦 新居浜西 0(0)-4(5) 今治西

女子団体

1回戦 新居浜西 2(3)-3(5) 松山中央

●弓道部

男子団体

第15位 予選敗退

女子団体

第9位 予選敗退

女子個人

片平菜月 予選敗退

●登山部

男子団体

5位

女子団体

リタイア

●ダンス部

「太陽の祭 いのち インティ・ライミ〜生命を謳う〜」8位

●テニス部

男子団体

1回戦 新居浜西 1-2 新居浜東

女子団体

1回戦 新居浜西 0-2 東温

女子個人シングルス

1回戦 安東佑奈

●新体操

団体 3位 横井香凛 由雄咲愛 富永莉子
山本花奈 近藤美月 矢島朱莉
(四国大会出場)

個人

ボール 第3位 山本花奈

クラブ 第1位 山本花奈

総合 第1位 山本花奈

(四国大会・インターハイ出場)

●ウエイトリフティング

女子45キロ級 安部希美 1位

文化部 大会結果

●放送部

第58回愛媛県高等学校放送コンテスト (第66回NHK杯全国高校放送コンテスト愛媛大会)

アナウンス部門 優秀 車谷郁実 (全国大会出場)

優良 伊藤公実

決勝進出 入屋早紀

朗読部門 優秀 青野夏月 (全国大会出場)

優良 原 一誠

ラジオドキュメント部門 最優秀

「休む？」監督：竹野姫果 (全国大会出場)

テレビドキュメント部門 最優秀

「限界集落の高校生は考える」監督：車谷郁実 (全国大会出場)

創作ラジオドラマ部門 最優秀

「溺れ……。」監督：入屋早紀 (全国大会出場)

創作テレビドラマ部門 最優秀 (4年連続)

「イカスマパスタ」監督：伊藤あいか (全国大会出場)

研究発表部門 最優秀

「継続的な作品発信をするために」監督：川崎圭梧 (全国大会出場)

総合優勝 (2年連続4回目)

上記 (全国大会出場) とは、第66回NHK杯全国高校放送コンテスト (東京)

他に、朗読部門 原 一誠・オーディオビジュアル部門・ビデオメッセージ部門が全国高等学校総合文化祭佐賀大会に出場

●囲碁・将棋部

第43回全国高等学校総合文化祭囲碁部門愛媛県大会

男子個人選抜戦 白石 希 7位

交流戦 男子5名出場

第43回全国高等学校総合文化祭将棋部門愛媛県大会

男子団体 新居浜西A (真鍋 悠・篠永智宏・重松敬明) 3位

新居浜西B (上藤大和・勝田簡也・高倉 悠)

1回戦 新居浜西A 3-0 松山東B

新居浜西B 1-2 松山東A

2回戦 新居浜西A 2-1 大洲A

準決勝 新居浜西A 1-2 松山工業A

3位決定戦 新居浜西A 3-0 松山東A

女子団体 新居浜西 (徳永涼乃・高橋美羽・柴岡ほのか) 3位

1回戦 新居浜西 1-2 済美

男子個人 9名出場

女子個人 6名出場

徳永涼乃 優勝、岡野美郷 4位、高橋美羽 ベスト8

第43回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会愛媛県大会

男子個人選抜戦 3名出場

白石 希 10位、廣瀬遥史 11位、白田雄一郎 13位

男子3名・女子2名参加

初級者大会 男子1名・女子1名参加

男子団体戦 新居浜西A (白石 希・廣瀬遥史・白田雄一郎) 3位

新居浜西B (秋吉亮佑・高見晃平・横関良祐) 7位

新居浜西C (篠永智宏・勝田簡也・上藤大和) 4位

第1試合

新居浜西A 3-0 済美平成

新居浜西B 0-3 松山工A

新居浜西C 1-2 松山中央

第2試合

新居浜西A 2-1 松山中央

新居浜西B 1-2 松山工B

新居浜西C 3-0 済美平成

第3試合

新居浜西A 1-2 松山東

新居浜西B 2-1 済美平成

新居浜西C 0-3 松山工B

女子団体戦 新居浜西A (徳永涼乃・高橋美羽・柴岡ほのか) 3位

新居浜西B (岡野美郷・簡井聖奈・金 凜園) 2位

第1試合

新居浜西A 1-2 新居浜西B

第2試合

新居浜西A 1-2 宇和島南

第3試合

新居浜西B 1-2 宇和島南

●華道部

第3回 全国高校生花いけバトル 四国大会

優勝 チームNW2 (中川絢晴・合田 梨)

## 新居浜の動き

### 「えひめさんさん物語」 絶賛開催中です



えひめさんさん物語  
EHIME SANSAN MONOGATARI

新居浜市は、愛媛県内では、四国中央市、西条市と合わせ、東予東部圏域と言われていますが、この東予3市と愛媛県が連携した初めての圏域振興イベント「えひめさんさん物語」が4月20日から11月24日の間、開催されています。

このえひめさんさん物語の「さんさん」とは、東予地域で脈々と受け継がれている、歴史、文化を背景としたものづくり「産業」

と石鎚山や赤石山系、法皇山脈の「山」、そして海や街に降り注ぐ「太陽(SUN)」、これらの3つの「さん」に加え、東予3市の「さん」を表しています。5月の第1話「ものづくり物語」から始まり、11月までの間、月ごとに開催されるイベントを彩る6つの物語の「コアプログラム」と、地域の人々が作る新しい物語である「チャレンジプログラム」、さらには地域のイベントや祭りとも連携する「連携プログラム」及び「セレモニー」の4つのカテゴリーで構成されています。

特に、10月の第5話「あかがね物語」は、東洋のマチュピチュと言われるマイントピア別子東平地区の絶景を背景に行う、東平エリア初の野外コンサートであり、新居浜市エリアのテーマイベントとなっており、新居浜市出身の石丸幹二さんを招き、標高750メートルで奏でる「天空の音楽祭」は、東平の新たな魅力を再発見できるのではないのでしょうか。

また、キャッチコピーである「三都を巡る、きらめく、モノ・コトさがし」を多くの皆さんが体験でき、東予地域の魅力を全国に発信することが期待されています。

### 「日暮別邸記念館」一般公開

日暮別邸は、新居浜から瀬戸内海の沖合20kmに位置する四阪島に、銅製錬を開始した翌年の明治39(1906)年、当時の住友家第15代当主である住友吉左衛門友純の命により、住友家の別邸として建築されました。大阪中之島図書館などの設計に携わった野口孫市氏が設計に関与しており、愛媛県を代表する洋館の一つです。

築後110年余りの歳月を経て老朽化が

進んできたことから、住友グループ20社が協力し、四阪島を遠望できる王子町に移築し、日暮別邸記念館として四阪島における銅製錬の煙害克服の歴史を中心に



天気の良い日は四阪島が見渡せます

広く伝えていく施設として整備され、昨年の11月1日から一般公開されています。新居浜市の発展の礎を築いた別子銅山のあゆみを感じることでできる新たな歴史スポットの誕生となりました。

#### 開館時間

9時～16時30分

#### 休館日

毎週月曜日、国民の祝日(祝日

が日曜日の場合は開館)、地方祭(10月17日)、年末年始(12月29日～1月3日まで)

#### 入館料

無料

#### 問合せ

日暮別邸記念館

0897-31-5017

### 「銅山峰のツガザクラ群落」が 国の天然記念物に指定されました

銅山峰周辺に生育する高山植物「ツガザクラ」が、昨年11月の文化審議会で、国の天然記念物に指定するよう文部科学大臣に答申され、今年の2月26日に指定されました。新居浜市では、昭和26年に指定された「一宮神社のクスノキ群」に続く、2番目の国指定天然記念物となります。

ツガザクラは、ツツジ科の常緑小低木で、

5月中旬から下旬にかけて、淡紅色で釣り鐘型の花(直径5ミリ程度)を咲かせます。銅山峰のツガザクラは、国内の生育地の南限であることに加えて、通常は標高2,500m級の高山帯に生育するツガザクラが、標高1,300m前後の低山であるにもかかわらず、国内でも類を見ない規模で群生していることは専門家の間でも注目されていましたが、天然記念物指定の決め手を欠く状況にありました。

しかし、専門家がDNA分析を行った結果、銅山峰のツガザクラは氷河期からの遺存種である可能性が高いということが判明しました。

それに加えて、日本三大局地風の一つに数えられる「やまじ風」の強風が吹き抜ける気象環境や、砂礫質(砂や小石)の土壌といった条件が重なって大群落を維持しているという、極めて希少価値の高いものであることが明らかになりました。

この分析結果には国も大きな関心を持ち、3度にわたって文化庁調査官による現地調査と、国指定に向けた生育状況の確認や指定範囲の検討が行われ、今回の指定となりました。

現在、地元登山愛好家グループや高校生が保護活動にあたっていますが、この国指定を機に、より一層の保護が図られることが望まれます。



時を超えて新居浜を見守ってくれています



## —西高の思い出—

理事 河野 一郎（昭和53年卒）

時代が「平成」から「令和」になり、世の中が変化していることを実感している今日この頃です。西高を卒業してから早41年経過いたしました、ついでこのあいだのことのような気がします。しかしながら、最近、同級生やその少し上の方の訃報を聞くことがあります。時の流れや寂しさを感じざるを得ません。

私が在学した当時のことを振り返りますと、西高は世間から勉強だけする進学校のように見られていました。実際は体育祭、文化祭の課外活動や体育部、文化部の部活動がそれなりに盛んで、生徒の自主性を尊重した教育がなされていたように思います。生徒も市内の各中学校から選抜された生徒や土居、伊予三島等の市外から優秀な生徒が集まっており、表向きはガリ勉しているようなところは見せず、余裕が感じられました。大半の生徒は学校では勉強していいと言いつつ、実のところ

る家では相当勉強していたように思います。ただ、授業の進度が速いため、ついていけない生徒もいましたが、2年からは習熟度別学級編成となり、そのクラスの中で各々居場所を見つけたような気がします。

当時の体育祭においては、夏休み前から準備や練習に取り組んでいました。応援合戦の練習では連日のようにドラム缶の太鼓を打ち鳴らし、3年生が下級生を指導していたことを思い出します。今は近隣の騒音防止のため、そのような音も聞こえなくなりました。2年生のメイン種目である仮装行列も早くから準備や練習に取り組んでいて、私自身必要な材料を集めに、リヤカーを引いて市内中を歩き回った記憶があります。市内の高校で保護者が観覧のための良い席を取るために、体育祭当日の朝、早朝から校門の前に並んでいるのは本校だけだと思いません。

また、授業のことを振り返りますと、優秀で個性的な先生方がそろっていて、特色ある授業が行われていたように感じています。理科の井手上先生や英語の森本先生や松本先生、数学の渡辺先生や千葉先生、体育の曾我先生の授業は印象に残っています。当時、西高生は1日最低4時間勉強しなくてはいけないのは常識であり、先生に「昨日何時間勉強しましたか。」と聞かれてそれより短い勉強時間では答えられないような雰囲気がありました。

現在においても勉学に力を入れた。課外活動や部活動が活発で生徒の自主性を尊重し、校訓である「自律生活」「自主学习」「自己鍛錬」を目標にした教育がなされています。新居浜市は人口が12万を切り西高の定員も1学年280人と減っていますが、今後地域トップ校としての進学実績を残した上で、学校の重点努力目標である「魅力ある進学校」を目指してほしいと思います。卒業生は大部分の方が県外に出られ、経済界をはじめ各界で活躍しており、世の中に有為な人材を生み出していることに同窓生として誇りを感じています。

最後に、同窓生の皆さんには人生100年時代と言われる今、健康に留意し、公私ともに還暦後もご活躍いただきますよう祈念いたします。同窓会にも目を向けていただき、運営費の協力や総会懇親会への参加をいただきますようお願いいたします。なお、このたびの拙文はあくまで私から見た個人的な感想であるとお断りしておきます。私も来年3月で定年を迎えますが、できる範囲で同窓会活動に協力していきたいと思えます。



# き部だより

## 東日本樟樹会

### 第11回東日本樟樹会総会・懇親会

東日本樟樹会の第11回総会と懇親会は、6月2日(日)東京都千代田区「アルカディア私学会館」で開催されました。出席者は、来賓として母校から五味昭秀教頭先生、同窓会本部から妹尾樟樹会会長と畑田顧問をお招きし、総勢で70名でした。昭和21年卒業から平成20年卒業の方まで幅広い年次の同窓生が出席しました。初めて参加された方は16名で、ホームページからの申し込みも若い方中心に十数名を数えました。

総会では井上会長の開会挨拶の後、来賓の五味教頭先生から母校の近況について、妹尾会長からは樟樹会本部の活動について報告がありました。続いて幹事会から昨年度の収支報告が行われ、全会一致で承認されました。

懇親会ではまず方言タイムが設けられ、会場は故郷の言葉(新居浜弁)が飛び交い、懐かしい雰囲気になりました。また新居浜市及び高校に関するクイズ大会が各テーブル対抗で催され、地元産の賞品(うどん、パン豆、万長ラーメンなど)獲得に向け、一同頭をひねりながら楽しいひと時を過ごしました。最後に出席者一同で校歌を斉唱し、懇親



会を締めくくりました。

次回は来年6月7日(日)に同会場「アルカディア私学会館」で第12回総会、懇親会を開催する予定です。

記 大澤 明文(昭和44年卒)

## 近畿くすのき会

### 第23回近畿くすのき会総会・懇親会

平成30年7月7日、近畿くすのき会は、大阪第一ホテルで第23回総会を開催しました。

開催日前日から西日本各地には大雨の特別警報が発令されていましたが、近畿地方は交通機関も運行されていましたので予定通りの開催となりました。

それでも、新居浜からお越し頂く予定であった妹尾樟樹会次期会長や玉井校長、講師の渡辺先生、そして司会の宮本さんは予讃線が不通となりお越し頂くことができず、被害状況さえわからない中での開催となりました。

開会挨拶で村上会長は、近畿の同窓生やふるさと愛媛を案じながらも年1回の集まりでもあるので、有意義に交流を深めて欲しいと述べられました。

その後、東京からお越し頂いた、樟樹会の畑田会長から祝辞を頂き、西高放送部が100周年に作成したビデオが上映され、昔の西高や新居浜の様子を懐かしく拝見させて頂きました。

懇親会は、加藤名誉会長長音頭の乾杯ではじまり、恒例となった参加者へのインタビュは会計の原田さんがインタビューを務め、今回から参加者が増えた58年組への歓迎ムードで盛り上がりました。

総会後、報道で被害状況を知ることになりましたが、被災された方に心からお見舞い申し上げますとともに、未だなお復旧にご尽力されています方々には心から敬意を表したいと思います。

記 近畿くすのき会常任幹事 田中 良典(昭和56年卒)

## 松山樟樹会 総会案内

日時 令和元年**11月2日**  
または**11月4日**の予定

場所 **東京第一ホテル松山**

※ 株式会社デンソーの有馬社長(昭和51年卒)をお迎えして開催いたします。

松山樟樹会会長 加藤 弘正



同期  
会  
俾  
り

三四会総会有終の美

山名 常美 (昭和35年卒)

昭和35年卒「三四会」は、平成30年10月16日に第12回総会を実施しました。参加者66名。「三四会」発足以来5年に1回総会を開催して来ましたが、「喜寿」の年をもって、「総会」は最終とする事になりました。

会場には、三四会の1〜12回の記念写真、新居浜の移り変わりの写真、自慢の作品を飾りました。「書」「絵」「藍染」「ステンドグラス」「焼き物」「手編のセーター」「俳句」「和歌」等々…。

総会は、にぎやかな中にも、先に逝った50余名に鎮魂の「篠笛」演奏もあり、素晴らしい一時を過ごしました。

総会は終わっても、今後も、「夏の樟樹会」への参加、「七草」「もちつき」「忘年会旅行」等々、今までどおり、種々



の行事に、皆が元気に参加する事を約束して散会しました。

昭和52年卒業還暦同期会

尾藤 巨基 (昭和52年卒)

平成30年11月10日土曜日18時より東京第一ホテル松山において、昭和52年卒業還暦同期会が行われました。

開催が松山ということもあり、参加者総勢31名と少し寂しいかな？といった参加者となりましたが、約2時間に亘り旧交を温めました。

テーブルは、高校3年当時のクラスを基に4つに分かれましたが、なにぶん30数年ぶりという時間のせいかわかるとかあるな、でも名前が出てこない、えーととと唸りながら手がおでこにいたり口を押えたりといったポーズが私だけでなくあちこちで見られました。

県庁にお勤めの内田バンビ君の司会進行で始まり、幹事の加藤君の挨拶、そして自己紹介と近況報



告をバイキング形式の料理をとり、グラスをもって旧友と談笑しながら耳を傾けました。

本を出している女史、大学教授、企業の社内メールで誘われて参加した旧友といろんな経歴を聞く中で、来賓の高山先生は地理を教えて下さっていた当時から本当に変わりにならず、我々同窓生の中においても区別がつかないくらい若々しかったのが印象的でした。先生お越し頂きありがとうございました！

懐かしい学校のスライドを見ながら最後は校歌斉唱「紫煙る」覚えてましたね。集合写真は、ご覧のとおり、名前を思い出せますか？今回来られなかった方も次の同期会（いつかな？）には是非元気なお顔をを見せて下さい。

同期会のお世話をしてくれた幹事の加藤君・杉田君、本当にお疲れ様でした。感謝・感謝です。

成人式記念同期会

石塚 昂大 (平成29年卒)

平成31年1月14日、私たち同期生が卒業してから初めての同期会がユアーズコープにて開催されました。この日は成人式の日ということもあり、多くの同期生が参加してくれました。同期生約170人に加え、岡本先生、佐伯先生、藤澤先生、吉村先生、日野先生をお迎えし、大変にぎやかな会となりました。

3年3組だった横井麟太郎君の乾杯のあいさつを機に、会場は

当時の思い出話で持ち切り。卒業して2年しか経っていないとは思えないほど会話が尽きませんでした。会の後半には、先生方から一言ずつお言葉いただきました。5人ともありがたいお話をしてくださったのですが中でも佐伯先生の「シヴァア神」は2年ぶりとも思わせな



い完ぺきなキレで、会場全体が佐伯先生を崇める神聖な空間となりました。個人的に一番印象に残っている時間でした。次の同期会は未定ですが、また多くの人が参加してくれることを願っています。5年後かな？10年後かな？みんなが結婚したり、働き始めたり、環境が変わったところにできたらいいかなと楽しみにしています。

### 昭和58年卒同期会

日時 令和2年1月3日(金)  
18時から

場所 リーガロイヤルホテル新居浜

みんな集まるよー！  
世話人代表 鴻上 照美

### 昭和47年卒同期会

日時 令和元年8月17日(土)  
16時から

場所 リーガロイヤルホテル新居浜

会費 7,000円

おめでとう65歳。まだまだ60代。  
ね、同期会でお祝いしましょ。

## 日本詩人クラブ新人賞

川井麻希さん

(平成10年卒)

いのちを継ぐ私たちは  
宇宙の生んだ時間のなかを進む  
気づかないまま握ったものを手のひらに感じて  
振り返る

日本詩人クラブ(川中子義勝会長)の  
第29回日本詩人クラブ新人賞に本校卒業  
生の川井麻希さんの詩集『あらゆる日も  
夜も』(土曜美術社出版販売)が選ばれた。  
賞の贈呈式は2019年4月13日に都内  
のホテルであった。

詩集『あらゆる日も夜も』は94頁で24  
編の詩がおさめられている。川井さんの  
日々から紡ぎだされた詩の言葉一つ一つ  
は繊細で美しい。家族への思いや故郷へ  
の思いを詠んだ詩もあり、なんだか懐か  
しい気持ちにもなる。本の装丁(写真)  
は和紙の風合いの優しい青色を基調にし  
たもの。国領川から見える海や空の色な  
のかもめない。この詩集は明屋書店・  
川東店に置いてある。また、インターネッ  
トでも購入可能。是非手に取ってほしい。



## 編集後記

令和初の「樟樹」をお届けいたします。  
さて、私こと、本号をもって編集委員長  
を卒業させていただきまます。顧みますに6  
号(1995)からなんと四半世紀の長き  
にわたり3代目の委員長を務めさせていた  
だきました。

長期在任の理由の一つは、2003年に  
同期生の畑田君が樟樹会会長に就任したこ  
とです。酒席で「畑田会長在任中は僕も編  
集委員長として支えよわい」などと言っ  
てしまったのですが、彼の在任期間が14年  
に至るとは思いもせませんでした。

長期在任となった理由のもう一つに、購  
読者数の問題があります。最初は卒業生(同  
窓会員)に購読のお願いをするのみでした  
が、微々たる数の申し込みもなく、製作  
者の一人として残念でなりませんでした。  
そこで、あれこれ知恵を絞り、在校生には  
無料配布しておりましたが、卒業後も年に  
一度本誌を読むことで母校愛をより深め、  
多忙な20代を過ぎながらも母校との縁を  
繋いでいけるのではないかと考え、卒業後  
12年間購読していただく(12年後には更新  
手続き)システムを、学校・PTAに提案  
し、1996年にご理解とご協力を得て実  
現にこぎつけました。これにより毎年一定  
数の購読者増が見込まれるようになりました。  
このシステムの言い出しっぺとして、  
購読者数が安定的に増えていくか、また、  
財政的に大丈夫かどうかを確かめる責任を  
感じ、これまで携わってまいりました。

畑田会長も昨年退任し、おかげさまで会  
誌「樟樹」も軌道に乗った今、私も任を離  
れることをお許しいただけるのではないかと  
思います。

創刊時からの編集委員は初代武田編集委  
員長と私の2人だけになってしまいました  
が、85歳を迎えてなお編集委員を務められ  
ています武田先輩に続き、今後は一編集委  
員として、健康の許す限りお手伝いさせて  
いただくつもりです。本誌がますます読者  
に愛され、同窓会活動を支える存在として  
継続・発展していくことを心から願って  
おります。

(6月15日69歳の誕生日に記す)

委員長	近藤 博司(昭44普)	織田 文生(昭60普)
委員	武田 信之(昭28普)	藤澤 真美(昭63普)
	近藤 司(昭42普)	越智 孝司(平2普)
	畑田 雅敏(昭44普)	日野 愛子(平12普)
	石川美千子(昭47普)	吉村 新平(平15普)
	鴨 裕子(昭49普)	鈴木 雅大(平16普)
	妹尾 次郎(昭55普)	
	安藤 寛和(昭58普)	
発行所	樟樹会	
	〒792-0024	
	新居浜市宮西町4-46	
	TEL 0897-32-4331	
	FAX 0897-32-4331	
発行者	妹尾 次郎	
編集者	近藤 博司	
印刷所	株式会社サラト	
発行日	令和元年7月15日	

表紙題字… 檜崎 一光老師  
表紙写真… 大久保直幸氏(昭和44年卒)  
大久保フォトス

